

## 8 三小校区の野鳥と牛臥山公園の野鳥

沼津市立第三小学校  
5年 中村 太河

### 1 動機

ぼくは、三年生の春頃から野鳥に興味を持つようになりました。そして、ぼくが住んでいる沼津市立第三小学校の校区では、どんな鳥が住んでいるか知りたいと思いました。そこで、三年生の夏休みから継続して研究をしています。

### 2 研究目的

今まで三小校区にはどんな鳥が見られるかを2年間にわたり研究してきました。これまでの2年間の研究で、季節によって見られる鳥は異なること、年によって見られる鳥の種類や数に変化があることがわかってきました。

#### (1) 今までの調査結果

##### ① 3年生の自由研究：三小校区の野鳥（2010年7月～8月）

見つけた鳥の種類：合計26種類

スズメ、カワラヒワ、ツバメ、イワツバメ、ウミネコ、ヒヨドリ、カワウ、トビ、キアシシギ、ドバト、キジバト、アオバト、ムクドリ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、コサギ、ゴイサギ、アオサギ、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、カルガモ、メジロ

わかったこと：

- ア 暑い夏でもたくさんの鳥がいる。
- イ 三小校区では塚田川から牛臥山公園にかけてが、いちばん鳥が多い。また種類が多く、特にめずらしい鳥がたくさんいる。(ゴイサギ、カワセミ、アオバトなど)
- ウ 木があつて、エサがあつて、水場がある場所に鳥はたくさんいる。
- エ 我入道海岸から御用邸公園までの松林にはあまり鳥がいない。
- オ 朝の方が鳥が見られる。また、潮が引いている時の方が、水辺の鳥はよく見られる。

##### ② 4年生の自由研究：三小校区の野鳥2（2010年9月～2011年7月）

新しく見つけた鳥の種類：23種類（2010年からの累計49種類）

ミサゴ、ノスリ、モズ、アオジ、クロジ、シメ、ウグイス、ツグミ、ジョウビタキ、ヒガラ、ソウシチョウ、エナガ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ヒメアマツバメ、オオバン、ヒドリガモ、マガモ、ホシハジロ、スズガモ

わかったこと：

- ア 寒い冬の間も様々な冬鳥が三小校区でくらしていることがわかった。
- イ 松林は夏はあまり鳥がいないけれど、冬はいろいろな鳥が見られる。特に実のなっているハゼの木や、松林の竹やぶに多い。
- ウ 外来生物のソウシチョウが、とうとう我入道の松林に群れでやってきた。
- エ たくさん住んでいたゴイサギが9月にカラスに追いはらわれてほとんどいなくなって

しまった。5月には巣のあった林が切られてしまい、ゴイサギが見られなくなった。

③ 4年生の自由研究：塚田川・牛臥山公園の野鳥（2011年7月～8月）

新しく見つけた鳥の種類：2種類（2010年からの累計51種類）

アカハラ、シロチドリ

わかったこと：

- ア 昨年の夏見られた鳥のうち、4種類（イワツバメ、キアシシギ、カルガモ、コゲラ）が見られなかったが、2種類新しい鳥を見つけた。
- イ 去年は毎日見られたゴイサギが、1回しか見られなかった。巣のあった林が切られてしまったからだと思う。
- ウ 木のあった所が草やぶになったので、逆にスズメやツバメが増えた。
- エ ゴイサギだけでなく、コゲラ、ヒヨドリ、コサギも減ってしまった。これも林がなくなったことが原因だと思う。
- オ 去年はすみ分けしていなかったカラス類だが、今年はハシボソガラスが減り、ハシブトガラスが増えた。
- カ 今年は潮の満ち引きに注目してみた。潮が満ちていると、コサギやアオサギは塚田川の上流に、潮が引くと上流から下流までのいろいろな場所にいることがわかった。
- キ コサギやアオサギは川の中に立って魚をつかまえるので、浅くてエサのボラがたくさんいる場所に集まる。
- ク 湿度による鳥の種類や数の違いは特になかった。
- ※ ゴイサギの巣のあった林は、ゴイサギだけではなく、他の鳥たちにとっても大事な場所だったことがわかった。林が小さくても、それがなくなると住めなくなる鳥がたくさんいる。木や林を大切にしなければいけない。
- ※ エサや巣を作る場所がないと鳥はやってこない。川のそばに川にとび出している枝の木があると鳥はエサをとりやすい。エサや生えている木や草の違いによる鳥の違いを調べてみたい。

(2) 今年の研究

昨年から夏休み期間中は、夏の間は鳥が多い、塚田川から牛臥山公園にかけてのエリアに注目し、調査しました。その結果、鳥の種類によって集まりやすい場所があることに気づきました。そこで今年はどうな鳥がいるのかだけでなく、どんな所にいるのか、なぜその鳥がいるのかを調べてみることにしました。

3 研究の方法

2011年9月から2012年6月まで、毎月1～2回校区内を自転車に乗って回り、肉眼と双眼鏡で探し、見つけた鳥の名前と場所、数を手帳に記録。その後、地図にまとめました。

また、2012年7月25日から8月24日までの夏休み期間は14回、塚田川と牛臥山公園にかけてのエリアにしぼって調査をし、見つけた鳥の名前と場所、数に加え、環境や見られた高さを記録。その後、地図と表にまとめました。

さらに今年には平均を出し、種類ごとの3年間の比較をしてみました。

4 まとめと考察

(1) 2011年9月から2012年6月

新しく見つけた鳥の種類：9種類（2010年からの累計60種類）

オナガガモ、カイツブリ、イソシギ、コガモ、キンクロハジロ、オカヨシガモ、ダイサギ、オオジュリン、ミツユビカモメ

わかったこと：

- ア 10月になると、三小校区にカモ類などの冬鳥がやってくる。(主に狩野川周辺)  
また、カモ類は4月になると渡っていってしまう。
- イ 2010年の9月には見られなかったツバメが、2011年の9月はまだ見ることができた。  
しかし、カモ類と入れ替わるように、10月にはいなくなり、4月に戻ってきた。
- ウ 今回の研究で、夏鳥と冬鳥はほぼ同じ時期に入れ替わることがわかった。
- エ この冬は小鳥たちの数が去年よりも少なかった。  
今年だけのことなのか、来年も注目してみたい。

(2) 2012年7月25日から8月24日

新しく見つけた鳥の種類：1種類 (2010年からの累計61種類)

ササゴイ

わかったこと：

- ア 鳥の種類によって好きな高さはあるが、必ずその高さにいるわけではない。
- イ エサをとる時は、地面や水面に降りるが、ふだんは高いところにいる鳥と、エサをとる時もふだんも地面や水面には降りない鳥がいることがわかった。

エサをとる時、地面におりる	水面におりる	地面や水面にはおりない
スズメ    ハクセキレイ    ムクドリ	コサギ    アオサギ	メジロ
イソヒヨドリ    ドバト    キジバト	ダイサギ    ゴイサギ	ツバメ
ハシブトガラス    ハシボソガラス	カワセミ	ヒメアマツバメ

ウ ピアゴ周辺で見られる鳥(ドバト、キジバト、ハクセキレイ、スズメ、ツバメ、イソヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス)は、建物や電柱、電線などの人が作ったものを利用していることが多い。人をあまり恐れなからだと思う。

エ 同じ塚田川でも鳥が集まる場所がある。

- a 元ゴイサギの巣の近く…草むらやいろいろな高さの木がある
- b 合流点…小魚が多いことに加え、木や高い建物がある
- c 双葉幼稚園の近くの桜や桑があるところ…川岸にある桜並木に加え、実のなる桑の木や高いイチョウの木がある
- d 二貫地橋とピアゴの間…潮が引くとすぐに浅くなるので小魚がつかまえやすい。  
岸に桜や山ももの木がある

このようにエサがとりやすく、すぐに避難できる場所が近くにある場所に、鳥たちは集まりやすい。この点は来年もっとくわしく調べてみたい。

## 6 感想

一昨年の夏は30羽ぐらいいたゴイサギが、その後カラスに追い払われたり、巣を作っていた林が切られたりしてほとんどいなくなっていました。ところがこの冬、1羽が戻ってきました。そして夏には親子だと思われる3羽が住みついてくれました。ゴイサギの巣があった林はなくなりましたが、橋をはさんだ下流側の松の木やグミの木をすみかにしていました。今残っているゴイサギが生活できる場所を守っていきたいです。

ただ、今年の夏は暑かったせいか、塚田川の上流は川が汚れて魚が住めなくなってしまう時がありました。汚い水が流れて、川から泡が出ていてすごくくさかったです。汚い水ができるだけ塚田川に流れないようにしてほしいです。どうしたら三小校区が鳥や他の生き物が住みやすい環境になるのか、これからも研究していきたいです。